

B-e-8 東日本大震災へのHORIBAグループの対応

HORIBA グループでは災害対策本部を設置し、グループ内の被災状況の確認および対応のほか、東北・関東地方で大きな被害を受けられたお客様や取引先向けに医用機器の貸し出しや試薬供給、サービス用の緊急車両を手配するなどの活動や、復興に必要とされる製品供給の迅速化を進めてきました。

また、社員の緊急連絡網の整備や安否確認訓練の実施など、リスクマネジメント強化に努めています。

●製品関連

復興に必要とされる製品の供給

再稼働が進められた火力発電所の排ガスを測る「煙道排ガス分析装置」や放射線を測定する「環境放射線測定器」の増産に、全社を挙げて対応しました。また、血糖値の測定に用いるグルコース分析装置用カートリッジの無償提供や、自動血球計数 CRP* 測定装置の無償貸し出しも行い、被災地の仮設診療所でお役立っていただきました。



環境放射線測定器

岩手県宮古市仮設診療所にて、無償貸し出しされた血液検査装置



* C-反応性蛋白(たんぱく)。体内に炎症反応などが起きている際、血液中に検出される。

～社員の声～

分析・計測機器メーカーとして

果たす役割

(株)堀場製作所 営業業務部 沢本 昌順

東日本大震災発生後、環境放射線測定器への需要が高まり、1日も早くお客様のもとお届けするべく対応してきました。初めて福島県へ足を運んだ際に目にした光景に、見えない臭わない放射線を把握することへの強い気持ち



環境放射線測定器の開発・製造・販売に関わる社員たち

災害対策本部



を新たにし、その後の仕事に取り組んできました。

2011年は「復旧」を意識してきましたが、2012年からは「復興」を意識し、分析・計測機器メーカーとして果たすべき役割を考えながら、5年先10年先、そして30年先までを見据え、HORIBA製品の提供を続けていきたいと思えます。